

平成29年海岸功労者一覧

(敬称略)

功績区分	事 項				推薦者
	番号	都道府県	個人・団体	氏名・団体名	
海岸愛護	1	新潟県佐渡市	団体	八幡・銀杏の会	新潟県
	2	新潟県長岡市	団体	野積ハマボウフウ育成会	新潟県
	3	新潟県新潟市	団体	浜浦小学校区青少年育成協議会	北陸地方 整備局
	4	新潟県新潟市	団体	関屋小学校区青少年育成協議会 関屋小学校区コミュニティ協議会	北陸地方 整備局
	5	茨城県大洗町	団体	大貫ローカルサーフチーム	茨城県
	6	愛知県豊橋市	団体	表浜BLUE WALK	愛知県
	7	山口県岩国市	団体	灘地区社会福祉協議会	山口県
海岸の利用	8	静岡県静岡市	団体	ビーチフェスタ in かんばら実行委員会	中部地方 整備局
海岸事業に 関する研究	9	茨城県守谷市	個人	宇多 高明	国土技術 政策総合 研究所
	10	大阪府池田市	個人	出口 一郎	四国地方 整備局
<p>都道府県 (5 団体) 地方整備局等 (2 個人・3 団体) 合計 (2 個人・8 団体) 10 件</p>					

海岸功労者功績調書

1. 海岸愛護 (7 団体)

(敬称略)

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
1	新潟県	団体	八幡・銀杏の会 (会長 本間 浩)

(功績概要)

佐渡市八幡地区にある“雪の高浜”と呼ばれた素晴らしい海岸(砂浜)と、“越の松原”と呼ばれた見事な松林(防風林)とが調和し、地区のシンボルとして又、災害(塩害・風害・飛砂)対策として住民の生活の中で非常に重要な役割をしてきました。しかし近年、海岸は侵食が激しく砂浜が消滅し、松林は松食い虫の影響で見るとも無惨な姿となってしまいました。八幡・銀杏の会は平成13年5月の設立時より同様の海岸植生の保護、環境保全および防風林(松林)の再生に取り組み、毎年定期的な海岸の清掃活動、砂浜が減少し稀少となっている“ハマボウフウ”の保護・移植、その他海浜植生の調査、そして海岸防災林の植樹および育樹活動と海岸環境保全活動に尽力されました。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
2	新潟県	団体	野積ハマボウフウ育成会 (会長 河合 久雄)

(功績概要)

平成10年に野積海岸で護岸工事が開始。それに伴い、地元住民で野積地域における海浜植物の生育状況を調査実施した。その結果、辺り一帯が穴だらけになるほど、ハマボウフウなどの野草盗掘の実態がわかった。当初は、数名で保護活動を開始したが、保護活動への共感者・賛同者が増えていき、平成22年4月に会員30名により「野積ハマボウフウ育成会」を立ち上げ、活動を行っている。活動内容は、野積海岸部約3kmの保全区域内で、4月(芽吹きの時季)から盗掘のパトロールを実施。また、地元で学習会を開くなど、地域住民に実態を認識してもらうとともに、盗掘禁止の看板設置等の啓発活動をしている。秋(種が熟す時)には、種を採取しハマボウフウのない砂浜に、種まきを実施。この種を、東日本大震災で壊滅的な被災を受けた宮城県名取市や北海道石狩市に送るなどハマボウフウ絶滅の危機に瀕する地域に送る活動も行って来た。当会の活動により、盗掘者が減少し、海岸環境保全や海浜植物の育成の向上に尽力された。

番号	都道府県名	個人又は団体別	氏名又は団体名
3	新潟県	団体	浜浦小学校区青少年育成協議会 (会長 景山 朝子)

(功績概要)

浜浦小学校区青少年育成協議会は、昭和52年から地域ボランティア行事として、海水浴シーズンが過ぎた毎年9月、新潟海岸の関屋浜海岸(新潟市中央区)において、海岸清掃活動の取り組みを行っている。同協議会は、平成28年9月3日(土)に児童や保護者などを中心として約340人が参加し、浜浦小学校区エリアの延長約500mの区間において海岸のゴミを拾い集める清掃活動を実施している。同協議会は40年もの長きにわたり、地域の海岸環境の美化保全に努め、海岸環境・海岸環境保全の意識向上に尽力された。

番号	都道府県名	個人又は団体別	氏名又は団体名
4	新潟県	団体	関屋小学校区青少年育成協議会 (会長 米山健一) 関屋小学校区コミュニティ協議会 (会長 田中 秀明)

(功績概要)

関屋小学校区青少年育成協議会は、昭和52年から地域ボランティア行事として海水浴シーズンが過ぎた毎年9月、新潟海岸の関屋浜海岸（新潟市中央区）において、また、関屋小学校区コミュニティ協議会は、平成18年から同海岸においてそれぞれ海岸清掃活動の取り組みを行っている。平成28年度は9月3日（土）に合同で両協議会の児童、保護者、地区住民があわせて約400人が参加し、関谷小学校区エリアの延長約500mの区間において海岸のゴミを拾い集める清掃活動を実施している。両協議会の活動は、それぞれ長きにわたり地域の海岸環境の美化保全に努め、海岸環境・海岸環境保全の意識向上に尽力された。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
5	茨城県	団体	大貫ローカルサーフチーム (代表 神原 晃)

(功績概要)

大貫ローカルサーフチームは、大洗サンビーチを中心に海岸環境の保全や地域の防災防犯を目的とし、平成16年以前より、毎月第二日曜日に大洗サンビーチのローカルサーファーが中心となり地域コミュニティ活動を行っている。活動内容は、大洗サンビーチを訪れる県内外のサーファーや家族連れに対してビーチクリーン（清掃活動）への参加を呼びかけ、一緒に清掃しコミュニケーションをとることで、海岸環境の保全に対する意識の向上や地域の防災防犯に尽力している。また、毎年、大洗サンビーチにおいて大洗町が実施する「クリーンアップ大洗」等の清掃活動には町内外に呼びかけ、10年間で延人数500名以上が参加している。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
6	愛知県	団体	表浜BLUE WALK (プロジェクトリーダー 中野 有彩)

(功績概要)

表浜BLUEWALKは、平成19年より海岸清掃活動を実施し、10年目を迎えました。平成28年度は、海岸ゴミを除去することによる、1. 表浜海岸の景観の向上、2. 絶滅危惧種アカウミガメの産卵場の保全、3. 海浜植物の生育場の保全、を目的として8月11日から20日までの10日間にわたり豊橋市(東細谷町)から田原市(伊良湖岬)の表浜海岸約50kmの清掃活動を実施するとともに、10月にも豊橋市内の海岸を2日間追加実施した。活動の企画立案から運営、活動報告を一貫して大学生中心のスタッフが実施することで社会性を身につけるとともに、期間中様々なワークショップの開催により環境問題について学習する機会や参加者同士の交流、地域とのつながりを強固にすることを目指して活動しており、海岸の環境美化、安全管理等に尽力された。

番号	都道府県名	個人又は団体別	氏名又は団体名
7	山口県	団体	灘地区社会福祉協議会 (会長 米田 政志)

(功績概要)

灘地区社会福祉協議会は、平成17年4月に設立し、地域環境保全や美化活動に力を入れて取り組んでおり、「自然・環境・生物、守るも人、滅ぼすも人」をスローガンに、毎年、7月の「海の日」(祝)に、約1キロの白い砂浜を守るための清掃活動「海の日キャンペーン・瀬戸内海環境保全大作戦」を展開している。平成28年度は第10回目の開催となり、地区住民のほか、地区内の高校や中学校、小学校から教職員や児童生徒、また、地区連合自治会や各種ボランティア団体から、総勢650人の参加を得て、漂着ゴミ約7トンを地元漁協の協力のもと、漁船5隻により海岸からの回収を行い、海岸環境美化に貢献し、また、地域住民の環境美化意識の向上に尽力された。

2. 海岸の利用（1団体）

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
8	静岡県	団体	ビーチフェスタ in かんばら実行委員会 (会長 緑川 武)

(功績概要)

蒲原海岸では、毎年海岸愛護月間の7月に海岸の保全意識の普及・啓発を図るとともに、里海(さとうみ)の自然財産を生かした市民の交流の場として「ビーチフェスタ in かんばら」を平成18年から企画、開催している。この実行委員会は、静岡市清水区蒲原地区のまちづくり推進委員会が主体となり静岡青年会議所、蒲原地区連合自治会、由比港漁業共同組合などから組織されており、カヌー乗り体験、波打ち際アソビなど、海岸を体験できる催しのほか、広い砂浜を利用した熱気球体験やビーサン飛ばしなどが行われる等、海岸の利用に関し、海岸環境の保全及び海岸の適正の利用に多大に尽力された。

3. 海岸事業に関する研究（2個人）

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
9	茨城県	個人	宇多 高明 (一般財団法人土木研究センターなぎさ総合研究所長)

(功績概要)

宇多高明氏は、昭和48年に建設省土木研究所に配属されて以来、40年以上に亘って海岸侵食やその対策等に関する研究及び技術開発に精力的に取り組んできた。その間に、海岸侵食の機構解明、等深線変化モデルの開発、人工岬工法や新型離岸堤の開発、人工リーフの設計の手引き、緩傾斜堤の設計の手引き、海岸保全計画の手引きの策定など、海岸侵食の機構に基づいた新たな海岸保全施設や海岸保全計画の策定法を考案し、地方整備局や都道府県等に対する技術指導を通じて、その研究成果は全国各地の海岸事業に活用されてきた。また、国内外の学会での研究発表や「海岸侵食の実態と解決策」、「Japan's Beach Erosion」などの出版のほか、インドネシアなど海外においても技術の普及に努めた。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
10	大阪府	個人	出口 一郎 (大阪大学名誉教授)

(功績概要)

出口一郎氏は、平成9年11月に設立した「高知海岸保全技術検討委員会」の委員長を20年にわたり務められ、高知海岸の計画から工事まで高潮侵食対策等の計画検討に貢献された。この高知海岸保全施設の計画決定においては、海岸工学の技術的知見により、気象海象現象や土砂動態等、高知海岸特有の波浪特性を考慮した、岸沖沿岸漂砂モデルの構築を行い、工事の実施計画、事業影響や将来予測などを実施した。また、委員長として、海岸事業者と学識経験者の調整を図り、直轄高知海岸の実態、社会性、事業実現性、利用面や景観、コスト等を総合的に勘案した新たな高知海岸高潮侵食対策の策定に尽力された。